



園 だ よ り

しもつき
11月(霜月)号

令和8年10月30日
千代田区立お茶の水幼稚園
園 長 伊 藤 栄 司



<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

モデリング

園長 伊藤栄司

校庭(園庭)の木々も少しずつ色づきを深め、秋から冬へと季節が移ろう頃となりました。まもなく立冬を迎えます。朝夕の空気にも冷たさが感じられるようになり、子どもたちは木の実や落ち葉を手にながら自然との触れ合いを楽しんでいます。

澄み切った青空の下で遊ぶ姿から、心も体も大きく育っている様子がうかがえます。自然の変化を身近に感じられるこの時季ならではの経験を大切にしながら、豊かな感性を育てていきます。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

身近にいる大人の姿

さて、子どもたちは日々の生活の中で様々なことを学んでいます。その中でも大きな影響を与えるのが身近にいる大人の姿です。子どもは大人の言葉だけでなく、表情や態度、行動の一つ一つを見て、知らず知らずのうちに同じように行動し身につけていきます。これを「モデリング」といい、成長において大変重要な役割を果たしています。

こうすれば良いのか

この夏、泊まったホテルでの出来事です。フロントで対応していた方に対して、子ども連れの保護者の方が強い口調で訴えている場面がありました。部屋の広さやベッドの数について行き違いがあったようですが、周囲が驚くほどの勢いでした。その様子をそばで見ていた小さな子どもは、どのように感じていたでしょうか。

思い通りにいかないときに声を荒げる姿を見れば、「こうすればよいのだ」と学んでしまうかもしれません。反対に、落ち着いて説明し、相手の話も聞きながら解決しようとする姿を見れば、そのような行動を自然と身につけていくことでしょう。

同じように関わる

日常の中でも同じことが言えます。「早くしなさい」と強い口調で急かしたり、「～しないと困るのはあなたよ」と言葉で追い詰めたりしてしまうことは、誰にでもあることかもしれません。しかし、これらの関わりも子どもにとっては大切な学びの機会です。

子どもは、してほしいと言われたことよりも、自分が実際にされたことをよく覚えています。そして、経験をもとに、友達や周囲の人に同じように関わるようになります。まさに大人の姿そのものが、子どもにとっての手本となっているのです。

私も小学校の担任時代、注意するときの口調とそっくりの話し方になっている子どもに気付き、慌てて言い方を改めたことがあります。日常的な事なので「つい」が重なり、子どもに影響を与えてしまったことを反省しました。

人生のモデルとして

本園でも、あいさつや言葉遣い、友達との関わり方など、日々の生活を通して大切なことを伝えています。同時に、私たち大人自身がどのような姿を子どもに見せているのかを常に振り返るようにしています。子どもたちにとって、保育者は人生のモデルとなる存在だからです。

日ごろの生活の中では、時にはうまくいかないことや思い通りにならないこともあるでしょう。そのようなときにこそ、大人がどのように考え、行動するかが問われます。

子どもたちが安心して自分らしく成長していくために、私たち大人が温かく、そして落ち着いた関わりを積み重ねていくことが大切です。一人一人のよさを第一に、豊かな心を育てていきましょう。